

福祉サービス第三者評価 評価結果

【保育所】

キッズビレッジつくし保育園

横浜市旭区笹野台 4-11-19

運営主体：社会福祉法人つくし会

● 実施概要	1 ページ
● 総合評価（評価結果についての講評）	2～3 ページ
● 評価領域ごとの特記事項	4～5 ページ
● 分類別評価結果	6～15 ページ
● 利用者家族アンケート分析・集計結果	16～23 ページ
● 利用者本人調査分析	24～26 ページ
● 事業者コメント	27 ページ

2009 年 3 月 24 日公表

実施機関：特定非営利活動法人 市民セクターよこはま

実施概要

事業所名	キッズビレッジつくし保育園	
報告書作成日	2009年3月24日	評価に要した期間 4ヶ月間
評価機関	特定非営利活動法人 市民セクターよこはま	

評価方法

<p>1、自己評価</p> <p>実施期間:2008年11月27日 ~2008年12月15日</p>	<p>一人ひとりに主旨説明し、各自、自宅に持ち帰り記入した。 各個人が記入したものを基に、リーダー(2名)、主任、園長、事務担当で1項目ずつ確認した。 園長、主任、保育士(3名)で最終確認を行った。</p>
<p>2、利用者家族アンケート調査</p> <p>実施期間:2008年12月6日 ~2008年12月14日</p>	<p>全園児の保護者(62家族)に対して、保育園側からアンケート用紙を手渡して配布した。 各保護者より、返信用封筒で、評価機関にあてて無記名で返送してもらった。</p>
<p>3、訪問実地調査</p> <p>実施日:第1日 2009年1月27日 第2日 2009年1月28日</p>	<p>[第1日] 午前:各クラスで保育観察。 昼食:2歳児クラス、幼児クラスで園児と一緒に食事しながら、保育観察。 午後:書類調査。園長・主任に面接調査。</p> <p>[第2日] 午前:朝は登園の様子を観察。その後、各クラスで保育観察。 昼食:幼児クラスで園児と一緒に食事しながら、保育観察。 午後:主任、各クラス担任保育士4名、栄養士1名、および非常勤職員2名に個別に面接調査。 その後、園長・主任に面接調査。 最後に意見交換を行い、終了。</p>
<p>4、利用者本人調査</p> <p>実施日:第1日 2009年1月27日 第2日 2009年1月28日</p>	<p>観察調査は、調査員が各クラスに分かれて実施した。戸外・園外での活動も観察。 幼児を中心に、観察調査や昼食で同席した際に、会話の中で適宜聞き取りを実施した。</p>

総合評価（評価結果についての講評）

【施設の概要】

キッズビレッジつくし保育園は相鉄線三ツ境駅より歩いて 10 分の坂の多い落ち着いた住宅街の中にあります。鉄骨平屋建ての園舎は乳児棟（0、1 歳児）と幼児棟（2、3、4、5 歳児）に分かれ、二つの棟は廊下とテラスでつながっています。園庭は広くありませんが、日当たりがよく、園のシンボルである大型遊具「つくしタワー」などがあります。

当園は 2002 年（平成 14 年）4 月に開設しました。運営は社会福祉法人つくし会が行っています。近くに系列の学校法人が運営する幼稚園があります。定員は 60 人（産休明け～5 歳児）、平日の開園時間は 7 時から 20 時、土曜日は 7 時から 14 時です。

保育理念として「子どもが主体的に健やかに成長できるよう、子どもの最善の利益を追求し、人的・物的環境を整えていく。保護者が安心して働き続けることができる保育体制を目指す」、保育目標として「丈夫なからだ、明るく豊かな心、いきいき遊ぶ」を掲げています。

◆ 高く評価できる点

1、子どもたちは、それぞれのペースでいきいきと園生活を送っています。

園では子どもが主体的に過ごせるよう、環境を整えています。遊具は片付け方や遊び方、約束事などを子どもが分かるように表示し、子どもが自主的に取り出して遊べるように配置しています。また、アスレチックや、製作、楽器、絵本などのコーナーを作り、子どもが自由に遊びこめるような環境設定をしています。寝る、食べる部屋を分けるなど子どもたちが落ち着いた生活ができるような工夫もしています。このような環境のもと、子どもたちはそれぞれの発達ペースに合わせ、元気に園生活を楽しんでいきます。

0、1 歳児は月齢や発達に合わせて 4 つにグループ分けし、一人ひとりの食事や睡眠、遊びの生活リズムを大切にしています。保育士は一人ひとりの子どもたちの目線にあわせて対応しています。子どもたちは保育士にたくさん話しかけられ、ゆっくり話を聞いてもらっているので、落ち着いています。

幼児、特に 3、4、5 歳児は異年齢で毎日を過ごしています。自分たちで考え行動することを大切にしており、子ども同士のかかわりの中で多くのことを学び育つよう保育士は見守っています。一日の予定を朝の会で説明し、子どもたちはその予定に沿って遊んだり、生活したりしています。保育士は危険な時や相手の気持ちを傷つける時以外は注意することはせず、子どもたちが自分で気づけるような声かけをし、必要な時は自分の気持ちを言葉で表現できるよう手助けしています。年齢の低い子どもたちは年齢の高い子どもたちの姿を見て、遊び方やルール、約束事などを学んでおり、年上の子どものまねをして自分たちで遊びのルールを決め遊ぶことができるようになってきています。

食事では幼児はセミバイキング形式となっていて、決められた時間内の自分の好きな時間を自分で選んで食べることができます。食べたい子どもたちは遊びをやめて着替え、ホールに来て、テーブルにつきます。一つのテーブルにみんなが揃ったら、自分の食べたい量を言い保育士によそってもらいます。このような取り組みの中で、子どもたちは自分の食べるペースや自分が食べる量をだんだんに学んでいきます。また、遊びを続けたい子どもたちは決められた時間内であれば、食事時間まで遊びこむことができます。

園目標の「丈夫な体」、「明るく豊かな心」、「生き生き遊ぶ」が実践されています。

2、保育士は「見守る保育」を目指し、連携してがんばっています

園では本年度から「子どもが主」という園の保育理念を実践するために保育方法を「見守る保育」に変えました。新しい保育を実践するために、保育士は昨年度から同じ保育方法を取り入れている保育園に研修に行くとともに、話し合いや勉強を重ねてきました。地域性や保護者の就労状況、環境などを考慮し、園としてどのように「見守る保育」を取り入れるかを話し合い、保育環境、人的環境を整えることを通して、保育

士同士の関係が育っています。

このような状況の下、保育士同士で声をかけあい、チームとして子どもたちを見守り、危険な時や遊びかたがわからない時など必要な時は声をかけ、手助けしています。子ども一人ひとりの発達について、会議で話し合い、関わる保育士全員に周知しています。公園などでは子どもの様子に合わせて、全体の動きが見えるようそれぞれの持ち場を決め、見守っています。持ち場を離れる時は、保育士は声をかけあい、連携します。また、生活面では、乳児の時から自分でできることは自分でできるように保育士は連携して一人ひとりに向き合っており、子供たちは幼児になると自分でできるように育っています。

チームで見守るためには保育士同士の連携が不可欠です。今年度から乳児棟と幼児棟のリーダーを決め、リーダーを中心にして、乳児会議、幼児会議、2～5歳児会議などの会議を開いています。また、連絡ノートを保育室におき非常勤職員との連絡を密にするなど、コミュニケーションをとるための工夫をしています。

当初は、新しい保育形態がまだ試行錯誤のため、保育士同士の認識のずれや伝達不足などがありました。これらの試みを通し保育士の連携が深まっています。今後、これらの試みをさらに進め保育士同士のコミュニケーションが深まることにより、園全体でチームとして動く体制が確立されることを期待します。

3、地域の施設として、地域と共に歩んでいます

園は開かれた地域の施設として、地域から見守られるようあえて柵を低くしています。散歩や近くの公園で遊ぶときには、子どもたちや保育士は地域の住民や親子と元気よくあいさつを交わしています。地域の住民も子どもたちのことをよく知っており、声をかけています。また、園の前の道路を歩く親子連れと柵越しに園長や主任、保育士が気楽に会話し、育児の相談にのるなどの自然な交流も行われています。

近隣の2つの自治会とも定期的な交流を図っています。公園の使い方などの地域からの要望は、すぐに職員会議で話し合い対応しており、地域との良好な関係を築いています。園の行事に近隣の住民を招待するほか、子どもたちも地域のお祭りで子ども用の山車に参加したり、地域ケアプラザで歌を歌ったりしています。

地域の子育て支援も積極的に行っています。市などから得た子育て関係の情報は園の柵の外側や入り口の窓ガラスなど地域住民の目の留まるところに掲示し、情報提供しています。また、家庭支援のための一時保育や園庭開放、親育て講座の他、2歳以上の未就園児対象に週1回「ぷるぷる」一時保育を実施しています。利用者からは、子どもから離れリフレッシュできる時間がもてると好評です。

このように、地域の施設としての取り組みを通し、子どもたちだけでなく保育士も多くのことを得、成長しています。

◆ 改善や工夫が望まれる点

1、保護者とのさらなるコミュニケーションに努めることが望めます。

園は新しい保育方法を保護者に理解してもらうために、懇談会や個人面談で理念や保育方法について説明するだけでなく、連絡帳や送り迎えの会話で保護者とコミュニケーションをとるよう努めています。また、保育参加への参加を積極的に保護者に呼びかけたり、ビデオを撮って懇談会で見せたり、子どもたちがいかに成長しているかを保護者に実際に見てもらおう機会を設けています。

しかし、保護者アンケートでは、パジャマの廃止やセミバイキング、0・1歳児が一緒に過ごしていることなどの具体的な事例を挙げ、「何か新しいことを始めるとき、事前に説明をお願いしたい」という意見が多く見られました。また、意見や要望がなかなか伝わりにくいと感じている保護者もいるようです。園側の努力にもかかわらず、保護者への説明が浸透していないように思われます。

新しい保育方法をさらに進めるためには保護者の理解・協力が必要です。園の取り組みを伝えるための今までの努力に加え、懇談会などで直接には声をあげない保護者の意見を吸い上げる方法を再考するなど、保護者との連携を深めるためのさらなる工夫や努力が望めます。

評価領域ごとの特記事項

※ かながわ福祉サービス第三者評価推進機構が定めた「評価領域」に則って、記載しています。

1、人権の尊重

- ◇ 保育理念「子どもが主体的に健やかに成長できるよう、子どもの最善の利益を追求し、人的・物的環境を整えていく。保護者が安心して働き続けることができる保育体制を目指す。」保育目標（保育の基本方針）「丈夫なからだ」「明るく豊かな心」「いきいき遊ぶ」は、利用者本人を尊重したものになっており、全職員理解の上、保育に取り組んでいます。
- ◇ 保育士は子どもの名前に「ちゃん」や「くん」を付けて優しく丁寧に呼びかけています。保育士は、こどもたちに対してせかしたり強制したりすることなく、落ち着いた言葉遣いで接しています。
- ◇ 個人情報保護規定があり、守秘義務については研修や会議を通して周知しています。保護者に対しては年度初めの全体会にて口頭で説明しています。
- ◇ 虐待について園としての統一的な定義はありませんが、個々の職員は理解しており、もし疑われるケースがあれば、区役所など関係機関と連携する体制をとっています。

2、意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供

- ◇ 園では、今年度「見守る保育」を実践しており、保育士は子ども自身が気付けるような言葉がけを心がけています。研修や勉強会を重ねて、注意するときの基準なども設けて取り組んでいます。
- ◇ 子どもが主体的に活動できるよう、おもちゃや教材は子どもの目の高さに並べ、折り紙やあやとりの手引書を置いたり、絵本コーナーや子どもがもぐりこんで遊べるスペースを設けたり、環境構成に配慮しています。
- ◇ 食事を豊かに楽しむために、幼児クラスは自分が食べられる量を言って保育士によそってもらうセミバイキング方式を取り入れ、ホールで一緒に食べています。また、流しそうめんや秋刀魚、クリスマスバイキングなど季節感のある献立を工夫しています。なお、食事と午睡の部屋は別になっており、子どもたちは、ゆったりと食事を楽しんでいます。
- ◇ ゴミの分別収集、牛乳パック・ペットボトルの遊具等への利用など、ゴミ減量化・リサイクルのための取り組みを行っています。また、水道・電気の使用節減を習慣化させるなど、省エネルギーの促進に努めています。

3、サービスマネジメントシステムの確立

- ◇ 保育計画は、保育の基本方針、住宅地や公園など地域の実態・周囲の環境、勤労状況など保護者の実状をも考慮して作成しています。また、日常の保育を通して子どもの意見や意思を汲み取る努力をし、子どもの自主性や主体性を育て、発揮できるような指導計画となっています。
- ◇ 乳児は子ども一人ひとりの発達状況に応じて保育目標を設定し、それに応じた個別指導計画を作成しています。幼児についても、特別な課題がある場合は個別指導計画を作成しています。
- ◇ 障がい児保育のための環境整備、保育内容の配慮を行っており、障がいの特性を考慮した個別指導計画を立てています。アレルギー疾患のある子どもへは、かかりつけ医の指示を受け代替食・除去食を提供するなど、適切に対応しています。
- ◇ 保護者へ第三者委員の仕組みを説明しています。また、意見箱や懇談会を通して、保護者からの要望や苦情を進んで聞けるようにするなど、保護者のサービスについての要望や苦情を汲み取る努力をしています。なお、現在、権利擁護機関など他機関の苦情解決窓口を紹介する状況には至っていません。
- ◇ 危機管理体制の確立に向け、事故対応や不審者対応のマニュアルが整備され、定期的な訓練も行われています。
- ◇ 健康管理、衛生管理、感染症対応など各種のマニュアルが作成され、保育の維持・向上に活用されています。

4、地域との交流・連携

- ◇ 自治会や民生委員・児童委員、区の子育て支援担当者、隣接する公園での地域住民との自然な交流などを通して、地域の子育てニーズを把握しています。
- ◇ 一時保育、園庭開放を実施しています。また、2歳以上の未就園児を対象とし、母親がリフレッシュすることと子どもが集団になれることを目的にして実施している毎週火曜日の「ぷるぷる」一時保育は、地域の母親に好評です。
- ◇ 定期的な相談日を設けるなどの対応はしていませんが、地域住民からの育児相談を随時受けています。
- ◇ 地域の自治会とは、定期的な交流があり、お祭りの子ども用の山車への参加など、子ども会とも交流が図られています。

5、運営上の透明性の確保と継続性

- ◇ 園長は、外部の会議などへの出席を通して、事業運営に影響のある情報を収集・分析し、重要な情報は職員会議などで説明し、重点改善課題として設定しています。
- ◇ 保育園として守るべき、法・規範・倫理等を明文化し、職員に周知し実行しています。また、他施設での不正・不適切な事案は職員会議等で説明し、それらの行為を行わないように啓発しています。
- ◇ 園の理念や基本方針は、「つくしの理念」「保育目標」として明文化し職員に周知し、保護者へも説明しています。重要な意思決定に当たっては保護者懇談会などを通して保護者と継続的に意見交換を通して説明していますが、保護者への説明に関しては、さらなる取り組みが望まれるところです。
- ◇ 保育園運営に関しては中長期的な計画や目標を策定して取り組んでいます。現在は、「見守る保育」を実践中です。

6、職員の資質向上の促進

- ◇ 職員・非常勤職員の研修体制が確立していて、今年度取り組んでいる「見守る保育」については、勉強会や実施園での研修を行っています。また、園外の研修会、大会等への参加、他の保育園での見学研修などを積極的に行っています。
- ◇ 子どもの状況に応じて自主的に判断できるように、職員には可能な限り権限を委譲する、職員会議等の各会議を通して業務改善の意見や提案を募るなど、本人の適性・経験・能力に応じた役割を与え、やりがいや満足度を高めています。なお、個々の職員の資質向上に向けた目標を毎年定め、達成度の評価を行う段階には、まだ至っていません。
- ◇ 実習生の受け入れにあたっては、実習目的に応じた効果的な実習が行われるように、実習依頼校からの書面を基にプログラム等を工夫しています。実習生には、仕事に対して、夢と希望を持てるように心がけて、接しています。

分類別評価結果

横浜市評価基準を使用しています。評価基準の詳細については、横浜市健康福祉局「福祉サービス第三者評価」のホームページ <http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/hyouka/index.html> を参照して下さい。





「ひょう太」の数の意味は以下の通りです。

3つ：高い水準にある 2つ：一定の水準にある 1つ：改善すべき点がある

評価分類の結果は、各分類を構成する1～6つの項目の評価結果で決まります。「ひょう太」が1つしかつかない項目が1つでもあると、その項目の属する評価分類の結果は「ひょう太」1つとなります。

評価領域 利用者（子ども）本人の尊重

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>- 1 保育方針の共通理解と保育計画等の作成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育理念「子どもが主体的に健やかに成長できるよう、子どもの最善の利益を追求し、人的・物的環境を整えていく。保護者が安心して働けることができる保育体制を目指す。」保育目標（保育の基本方針）「丈夫なからだ」「明るく豊かな心」「いきいき遊ぶ」は、子ども本人を尊重したものになっていて、全職員が理解しています。 ・保育計画は、保育の基本方針、住宅地や公園など地域の実態・周囲の環境、勤労状況など保護者の実状をも考慮して作成しています。 ・日常の保育を通して子どもの意見や意思を汲み取る努力をし、子どもの自主性や主体性を育て、発揮できるような指導計画となっています。
<p>- 2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・入園前に、担当が予想される保育士が保護者に面接を行うとともに子どもを観察しています。また、保護者に入園までの生育暦や家庭での状況を記載して提出してもらっています。 ・短縮保育（ならし保育）が必要な場合は、保護者への十分な説明をしています。子どもが、心理的拠り所とする物の持ち込みについては、個別に対応して受け入れています。 ・子どもの生活の連続性の視点から、0歳児、1歳児、2歳児に対しては、保護者への丁寧な連絡をノートで行っています。 ・子どもの発達や状況に応じて指導計画の作成・評価・見直しを行っています。

- 3 快適な施設環境の確保



- ・子どもが快適に過ごせるように、採光、換気、照明などの、環境への配慮がなされています。園の内・外は、チェック表に基づき常に清掃を行っています。
- ・沐浴設備、温水シャワーなど体を清潔にできる設備があり、チェック表により管理・清掃を行っています。
- ・低年齢児室は、じゅうたんや柵・間仕切りなどを配置して小集団保育が行われるよう工夫しています。
- ・食事と午睡の部屋を別々に確保しています。幼児クラスは、ホールをランチルームとして使用しています。
- ・3~5 歳児の幼児クラスは異年齢児クラスとなっています。また、年度後半には0、1 歳児も発達段階に応じて異年齢児クラスとしてグループ分けしています。

- 4 一人ひとりの子どもに個別に対応する努力



- ・乳児は子ども一人ひとりの発達状況に応じて保育目標を設定し、それに合わせた個別指導計画を作成しています。個別の目標・計画は、クラスの会議において定期的に見直すのみでなく、子どもの発達状況に合わせ柔軟に変更・見直しを行っています。幼児についても、特別な課題がある場合は個別指導計画を作成しています。
- ・子どもや家庭の個別の状況や要望、入園後の子どもの成長・発達状況は、記録として保管・管理しています。なお、子どもの記録内容は、全職員が共有できるしくみになっています。

- 5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み




- ・特に配慮を要する子どもを受け入れています。保育する上で必要な情報は職員間で共有しており、個別のケースについては、各クラスの会議で話し合っています。
- ・障がい児保育のための環境整備、保育内容の配慮を行っており、障がいの特性を考慮した個別指導計画を立てています。また、障がい児保育について、職員会議等を通して、全職員で学習し話し合える体制ができています。
- ・アレルギー疾患のある子どもへは、かかりつけ医の指示を受け代替食・除去食を提供するなど、適切に対応しています。なお、アレルギー疾患についての必要な知識や情報が、まだ全職員に周知されている状況には至っていません。
- ・外国籍や帰国子女など、文化の異なる子どもに対しては、他の子どもたちが文化や生活習慣の違いを認め、理解できるよう配慮しています。


- 6 苦情解決体制



- ・保護者へ第三者委員の仕組みを説明しています。また、意見箱や懇談会を通して、保護者からの要望や苦情を進んで汲み取る努力をしています。
- ・要望や苦情を受け付けています。それらに対応するための手順が整備され、園単独で解決困難な場合には、外部の相談機関として区役所と連携できる体制をつくっています。
- ・なお、現在、権利擁護機関など他機関の苦情解決窓口を紹介する状況には至っていません。

評価領域 サービスの実施内容

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 保育内容[遊び]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの目の高さにおもちゃや教材を並べ、子どもが自分で取り出せるようになっています。幼児クラスはおもちゃの名前や写真を棚に表示し自分でしまえるように工夫しています。 ・おもちゃの遊び方などを保育室内に掲示したり、折り紙やあやとりの手引書を置いたりし、子どもたちが自分たちで考え遊べるように工夫しています。また、子どもの発達の様子を見て、おもちゃを入れ替えたり、季節に合わせたおもちゃをだしたり、環境設定をしています。 ・絵本コーナーや楽器コーナー、子どもがもぐりこんで遊べるスペースなど、子どもがそれぞれ落ち着いて遊べる環境を確保しています。また、2階にはアスレチックを楽しめるコーナーがあります。 ・昼食は決められた時間内の自分の好きな時間に食べることができ、子どもたちは遊びを中断せずに遊びこむことができます。 ・保育士は子どもたちの動きが見える位置で、子どもたちの遊びを見守り、危険な時に声をかけたり、遊び方やルールを説明したりしています。 ・トマト、ナス、ブロッコリー、ラディッシュなどの野菜を栽培しており、栽培した野菜を用いてクッキングを行っています。また、カイコ、メダカ、カメなどを飼育しています。 ・保育室に紙や粘土、はさみ、のり、クレヨン、などの素材や用具が用意され、子どもが自由に取り出して製作できるようになっています。 ・子ども同士のけんか等の場面では、乳児については言葉で自分の気持ちを伝えるように保育士が仲立ちしています。幼児については、保育士は自分たちで解決するよう見守っていますが、危険な時や相手の気持ちが分からない時は、お互いの気持ちが分かるような声かけをしたり、仲立ちしたりしています。 ・0、1歳児、3、4、5歳児が同じ保育室を用いているため、子どもたちは日常的に異年齢で交わっています。乳児が散歩から帰ると、気がついた幼児が靴を脱ぐ手伝いをするなど、ごく自然に交わっています。

	<p>また、週1回の「つくしの日」には全園児と一緒に全保育室を使い過ごしています。年齢の低い子どもたちは年齢の高い子どもたちの姿を見て、遊びや生活のやり方や約束事を自然に学んでいます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳児は週1回のリトミック、3、4、5歳児は体操・水泳教室を実施するなど、発達段階に応じて、運動能力を高めるような取り組みを行っています。
<p>- 1 保育内容[生活]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児クラスは自分が食べられる量を言って保育士によそってもらうセミバイキング方式を取り入れ、ホールで一緒に食べています。 ・流しそうめんや秋刀魚、クリスマスバイキングなど季節感のある献立を工夫しています ・「栄養指導」として栄養士が子どもたちの目の前で大豆からおからを作ってみせたり、鯛と秋刀魚と鯰、ほうれん草と小松菜などが見分けられるかクイズをしたりなど、子どもたちが食材に興味をもつような取り組みを行っています。 ・給食は委託ですが、委託先は安全性が確認できる食材を用いるよう配慮しています。食材について不安があるときは、園は委託先からの安全性の証明書を提出してもらい掲示しています。 ・毎月の給食会議では園長、主任、保育士、栄養士で各クラスの喫食の様子について情報を交換し、話し合っています。また、委託先の本社において受け持ちの複数の保育園の栄養士で栄養士会議を開き、意見交換し、献立・調理の工夫に反映しています。 ・給食の実物サンプルをおき、保護者に給食の様子を知らせるとともに、保育士が一食の標準量を確認したり、子どもたちが箸、スプーン、フォークのどれを用いるかを決めたりする時の参考としています。 ・食事と午睡の部屋は別になっており、カーテンやブラインドを下ろすなど、心地よい眠りにつけるよう工夫しています。 ・布オムツを使用しています。トイレトレーニングは、子どもの発達状況に合わせ、保護者と連携し個別に対応しています。 ・0、1歳児はトイレの時に、保育士が1人ずつ対面でゆっくりと話しかけ、一人ひとりとスキンシップをとる時間にしています。

- 2 健康管理・衛生管理・
安全管理 [健康管理]



- ・「健康管理マニュアル」に基づき、一人ひとりの健康状態を把握しています。
- ・健康診断の前に内科健診質問表を保護者に配布し、気になっていることや園医に聞きたいことを記入してもらっています。検診の結果は、「内科健診結果のお知らせ」に園医が直接記入し、保護者に知らせています。
- ・子どもの様子で気になっていることがあればすぐに連絡を取り診てもらするなど、園医とは日常的に連携しています。
- ・保育室には感染症マニュアルを置くとともに、感染症の特徴を掲示しています。保育中に発症した場合には、保護者へ速やかに連絡し、対応について話し合っています。

- 2 健康管理・衛生管理・
安全管理 [衛生管理]



- ・衛生管理に関するマニュアルがあり、現在、クラスごとにマニュアルを見直し中です。マニュアルは各保育室に置いてあり、非常勤職員を含む全職員が自由に読むことができます。
- ・マニュアルに基づき清掃が行われ、清潔・適切な状態が保たれています。

- 2 健康管理・衛生管理・
安全管理 [安全管理]



- ・危機管理マニュアル、事故対応マニュアル、応急処置マニュアルを整備しており、職員会議で説明しています。また、非常時の対応(事故発生時の対応、蘇生法)や緊急連絡体制を事務室および各保育室に掲示しています。
- ・毎月、地震や火災、台風による水害などの災害を想定したり、スモークマシンによる煙を使ったりなど、さまざまな避難訓練を実施しています。時間帯も昼だけでなく、朝や夜の長時間保育時間、火曜日の「ぷるぷる」一時保育と合同などさまざまな時間帯に行っています。また、公園や幼稚園などへの避難場所への誘導訓練も実施しています。
- ・子どものケガについては軽症であっても保護者に状況を説明しています。また、翌日の朝にも降園後の子どもの様子を確認しています。子どものケガは全て、事故報告書、事故後の対応チェックリストに記入するとともに、職員会議で報告し、話し合っています。
- ・現在、園庭への入り口の施錠は不十分ですが、今年度中にキーロックを導入する予定です。他の入り口は施錠しています。
- ・園では地域の施設として、地域に見守ってもらえるよう、柵はあえて低くしています。不審者等の情報は区役所、自治会、地域住民からすぐに園に伝わる関係ができています。

- 3 人権の尊重



- ・園では「見守る保育」を実践しており、保育士は叱るのではなく子ども自身が気づけるような言葉がけを心がけています。注意するときの基準（危険な時と、相手のいやな思いに気がつかない時）も設け、職員にも周知しています。
- ・全職員が声の大きさや言葉に注意して保育を行うように職員会議などで話し合い、認識しています。また、園長、主任は日常の保育の中や、連絡ノートでも周知しています。
- ・園舎全体が子どものプライバシーを保てる作りになっています。コーナーや廊下、2階やホールのカウンターのかけなど友だちや保育士の視線を意識せずに過ごせる場所があります。
- ・「個人情報保護に関する方針」「個人情報保護に関する基本方針」「個人情報管理規程」を策定し、職員に周知しています。ボランティア、実習生に対してはオリエンテーションで、保護者に対しては、年度初めの全体会において個人情報の取り扱いについて説明しています。
- ・個人情報に関する記録は施錠できる棚に保管しています。メモリースティックは施錠できる場所に保管し、許可なく園外へ持ち出すことはできません。
- ・虐待について個々の職員は理解しており、事例について話し合ったことはありますが、園として虐待の定義についてすりあわせたことはありません。
- ・順番、グループ分け、整列などを性別にしていますが、スモックが男の子がブルー、女の子がピンクとなっています。
- ・性別による固定観念で保育をしてはいけないことを個々の保育士は理解していますが、職員同士で話し合ったことはありません。



- 4 保護者との交流・連携






- ・園のしおり『こどものむらつくしへようこそ』に園の理念、保育目標を掲載するとともに、特色、保育計画、保育計画、保育形態について説明しています。
- ・懇談会、個人面談や朝夕の送り迎え時の会話などで保護者の意見を聞いていますが、アンケートなどで保護者が基本方針を理解しているかを確認したことはありません。行事などでアンケートをとり、自分から声をあげることができない保護者の意見も吸い上げる工夫をすることが望まれます。
- ・毎月「つくしだより」「クラスだより」を発行しています。「クラスだより」にはその月の目標やねらいをクラスの様子を載せるとともに、園児一人ひとりの「つぶやき」や様子を載せ、保護者に子どもたちの様子を伝えていきます。
- ・保護者の相談を受けた担任が対応しきれない時は、主任、園長が助言、対応する体制ができています。受けた相談は記録し、その対応や経過を職員会議で職員に周知しています。
- ・年2回のクラス懇談会では、保育内容や目的について説明しています。子どもの変化の様子をビデオに撮り、クラス懇談会で保護者に伝えていきます。また、行事全体の様子を写真に撮り、保護者専用のホームページにアップしています。
- ・保育参加を行い、保護者に積極的に参加を呼びかけています。

・保護者組織はありませんが、保護者の有志が救急法の講習会を開催した時に場所を提供するとともに、職員も参加しています。




評価領域 地域支援機能

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会や民生委員児童委員、区の子育て支援担当者、隣の公園での地域住民や親子との自然な交流などを通して地域の子育てニーズを把握しています。また、園長は幼・保・小研修会、区の私立園長会役員会、自治会、区などと情報交換しています。 ・一時保育、園庭開放を実施しています。また、2歳以上の未就園児を対象とし、母親がリフレッシュすることと子どもが集団になれることを目的にして実施している毎週火曜日の「ぷるぷる」一時保育は、地域の母親に好評です。 ・地域住民に向けて「親育てセミナー」を開催しています。また、スモークマシーンによる煙を使っの避難訓練には地域の親子が参加しました。
<p>- 2 保育園の専門性を活かした相談機能</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜市や区などの子育てに関するポスターなどを園の柵の外側や入り口の窓ガラスなど地域住民が見えるように掲示しています。 ・定期的な相談日を設けるなどの対応はしていませんが、地域住民からの育児相談は随時受けています。通りがかりに園を見ている親子連れに保育士が柵越しに気軽に声をかけ、話を聞くなど自然な形で相談にのっています。 ・園の行事などのお知らせは2つの自治会（南笹野台、富士見ヶ丘）に回覧するほか、自治会や近隣の公園の掲示板に掲示しています。 ・必要な関係機関・地域の団体等をリスト化しており、職員も見ることができます。自治会、民生委員児童委員、区の関係者との連携ができています。




評価領域 開かれた運営

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・隣接の笹野台第三公園で開催の運動会、園内で開催のつくしコンサートや人形劇には、地域の住民を招待しています。また、自治会長とは定期的に交流を図っていて、地域のお祭りには、綿菓子機や臼・鍋などを貸し出すなど、保育園に対する理解促進のために種々の取り組みを行っています。 ・子どもと地域との交流により、子どもの生活の充実と地域の理解を深めています。 ・散歩の際に地域の方々と挨拶を交わす、公園にて親子連れと交流するなど、地域の人達と接する機会を積極的に設けています。また、近隣の幼稚園や小学校を訪問する、二ツ橋地域ケアプラザを訪問してお年寄りにダンスを披露するなどの交流を図っています。 ・地域の祭り子ども用の山車や、地域の行事や活動に参加するなど、南笹野台子ども会とも交流を図っています。
<p>- 2 サービス内容等に関する情報提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園のパンフレットやホームページ、横浜市子ども青少年局のホームページにより、将来の利用者が関心のある事項について分かりやすく情報を提供しています。 ・園の基本方針や利用条件・サービス内容等についての問合せに対しては、常時対応できるようにしています。また、見学ができることも案内しています。
<p>- 3 ボランティア・実習の受け入れ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアや実習生の受け入れにあたっては、事前にオリエンテーションを行って、園の方針、子どもたちへの配慮等を説明しています。主任が、受け入れと育成の担当者となり対応しています。終了時には感想や意見をレポートの形で提出してもらっています。 ・受け入れたボランティアは、民生委員児童委員協議会主催によるジュニアボランティア、区が推進する「みんなのボランティア」（もちつき、おもちゃの修理、農園の手入れ）などがあります。 ・実習生に対しては、実習目的に応じて効果的な実習が行われるように、実習依頼校からの書面を基にプログラム等を工夫しています。仕事に対して夢と希望を持てるように心がけて、接しています。 ・実習においては、毎日の反省会、終了時のまとめの意見交換会を行い、実習を意義あるものに行っています。

評価領域 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 職員の人材育成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・人材育成計画に基づいて、保育園の理念や方針に適合した人材を育成するための取り組みを行っています。 ・職員・非常勤職員の研修体制が確立しています。内部研修「見守る保育」については、勉強会や実施園での研修を行っています。また、園外の研修会、大会等への参加、他の保育園での見学研修などを積極的に行っています。 ・研修の成果を職場で活かすために、受講者は研修報告書にまとめ、職員会議等で報告し情報の共有化を図っています。 ・なお、個々の職員の資質向上に向けた目標を毎年定め、達成度の評価を行う段階には、まだ至っていません。 ・各クラスには、業務マニュアルが配置され誰でも見られる状態になっていますが、非常勤職員への業務マニュアルの周知については、まだ十分な状況には至っていません。
<p>- 2 職員の技術の向上</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週開催のクラス会議においては、日常の保育に関する事項を話し合っていて、職員は保育スキルの問題としてとらえ、自己評価を行っています。 ・各クラス月間指導計画会議、クラス会議では、工夫・改善した良い保育事例をもとに、一層の保育向上を目指しています。 ・特に、同じ保育を目指す保育園との間においては、職員間交流研修を行いスキルアップに努めています。
<p>- 3 職員のモチベーション維持</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの状況に応じて自主的に判断できるように、職員には可能な限り権限を委譲する、また職員会議等の会議を通して業務改善の意見や提案を募るなど、本人の適性・経験・能力に応じた役割を与え、やりがいや満足度を高めています。 ・園長は、個別に面接を行うことにより、職員の満足度や要望を把握して指導育成を図っています。しかし、園として経験・能力や習熟度に応じた役割を期待水準として明文化した状態には至っていません。

評価領域 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 経営における社会的責任</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業者として守るべき、法・規範・倫理等を明文化し、職員に周知し実行しています。また、他施設での不正・不適切な事案は職員会議等で説明し、それらの行為を行わないように啓発しています。 ・なお、経営、運営状況等の情報を積極的に公開する状況には至っていません。 ・ゴミの分別収集、牛乳パック・ペットボトルの遊具等への利用など、ゴミ減量化・リサイクルのための取り組み、水道・電気の使用節減など、省エネルギーの促進に努めています。しかし、環境への考え方、取り組みを明文化する状況には至っていません。
<p>- 2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園の理念や基本方針は、「つくしの理念」「保育目標」として明文化し、職員に周知しています。 ・重要な意思決定に当たり、園長は保護者懇談会などを通して保護者と継続的に意見交換をし、説明していますが、利用者家族アンケートからは、保護者への説明に関しては、さらなる取り組みが望まれることがうかがえます。 ・主任は、会議への出席や話し合いなどにより、個々の職員の業務状況を把握しています。そして、個々の職員の能力や経験にあわせた的確な助言や指導に努め、精神的・肉体的に良好な状態で仕事に取り組めるよう配慮しています。
<p>- 3 効率的な運営</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園長は、旭区公立私立保育園園長会、市社会福祉協議会園長会などへの出席を通して、事業運営に影響のある情報を収集・分析し、重要な情報は職員会議などで説明し、重点改善課題として設定しています。 ・保育園運営に関して、中長期的な計画や目標を策定して取り組んでいます。現在は、「見守る保育」を実践中です。また、幹部職員はリーダークラスの育成に努めています。

利用者（園児）家族アンケート 分析

- 1、実施期間 2008年12月6日～12月14日
- 2、実施方法 保育園から全園児の保護者に直接配付（手渡し）し、回答を依頼。
各保護者より、同封の返送用封筒で、評価機関あてに無記名で返送。
- 3、回収率 約72.6%（62枚配付、45枚回収）
- 4、所属クラス 0歳児クラス...8人、1歳児クラス...10人、2児クラス...5人、3児クラス...7人、
4児クラス...7人、5歳児クラス...8人
ただし同一家族で複数名が園に在籍している場合は、下の子どものクラスについて回答。

文中の「満足度」とは、「満足」と「どちらかといえば満足」の回答を合わせた数値です。

文中の「不満」とは、「不満」と「どちらかといえば不満」の回答を合わせた数値です。

設問ごとの特徴

【問1】保育園の基本理念や基本方針について

73%の保護者が「よく知っている」「まあ知っている」と答えています。「よく知っている」「まあ知っている」と答えた保護者のうち88%が、“保育目標や保育方針に賛同できる”と答えています。

【問2】入園時の状況について

「入園児の面接などで、お子さんの様子や生育暦などを聞く対応」には96%の満足度でした。その他の項目については、80%台の満足度でした。自由記入欄には“親切に教えてくれた”“温かく接してくれた”などの記述があります。

【問3】年間の計画について

「年間の保育や行事についての説明」は91%の満足度ですが、「年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているか」については、33%の保護者が不満と答えています。自由記入欄には、“行事などの年間計画について、もっと保護者の要望を聞いて欲しい”などの意見が寄せられています。

【問4】日常の保育内容「遊び」「生活」について

「遊び」については、ほぼすべての項目において90%以上の高い満足度です。特に「自然に触れたり地域に関わるなどの園外活動」は96%の満足度です。自由記入欄には、多彩な遊び、遊具もたくさん、リトミックなど、園の保育に共感・信頼の記述が見られます。「遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについて」は、11%の不満があり、“もっと公園で遊ばせて欲しい”の記述があります。

「生活」については、「給食の献立内容」が100%の満足度、「お子さんが給食を楽しんでいるか」が96%の満足度であり、保育目標の食育が理解され信頼されていることがうかがえます。一方「昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているか」は16%の不満、「保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には」は25%の不満となっています。自由記入欄には、昼寝の時の着替え、体調不良の時の休み場所、ケガに対する説明などについての意見・要望が寄せられています。

【問5】快適さや安全対策などについて

「施設設備」が100%の満足度、「お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気」が91%の満足度であり、園舎に対する高い満足度がうかがえます。しかし、「外部からの不審者侵入を防ぐ対策」は、49%の保護者が不満を示しています。

「感染症の発生状況や注意事項などの情報提供」については、20%の保護者が不満を表明しています。自由記入欄には、“お部屋の前に掲示して、連絡してくれるので安心です”との記述と共に、“注意事項の

知らせが遅い”“ 感染した場合、保護者からは速やかな連絡を、徹底して欲しい”などの要望があります。

【問6】園と保護者との連携・交流について

全般的に、ほぼ80%前後の満足度となっています。しかし、アンケート7項目の内、20%前後の不満足度となっているのがいくつかあります。「保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会」について25%、「送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換」については27%、「保護者からの相談事への対応」については不満が22%、「開所時間内であれば柔軟に対応してくれるが、残業などで迎えが遅くなる場合の対応」については18%、が不満となっています。

自由記入欄には、“話しやすく相談できる”“質問には丁寧に答えてくれる”との安心・感謝の記述もありますが、“お話しにくい”“時間・余裕がない”など、連携・交流が進んでいない状況についての種々の記述があります。

【問7】職員の対応について

「お子さんが大切にされているか」「お子さんが保育園生活を楽しんでいるか」については、95%以上の満足度ですが、「話しやすい雰囲気、態度であるかどうか」「意見や要望への対応について」には、20%以上の不満が見られます。自由記入欄からは、保護者は職員とのより多くの意見交換を望んでいるようにうかがえます。

【問8】保育園を総合的に評価すると

89%の満足度です。

【問9】園への要望など

“大変満足しています”“良い先生方に恵まれています”と多くの感謝や信頼の意見が述べられています。しかし、保護者からの要望として共通している事に“何か新しいことを始めるとき、事前に説明をお願いしたい”という意見が多数ありました。保護者は園の施策について、保護者の意見も十分聞いて欲しいと望んでいます。

まとめ

- ◇ 保護者は、問4「日常の保育内容について」、問5「施設設備・環境」に対しては高い満足度を示しています。
- ◇ 一方、問5「外部からの不審者侵入」に対して、多くの保護者が不安を持っています。園は、今期中にキーロックを導入する予定ですが、今後、園として引き続き検討を進められるとともに、対策状況などの保護者への説明が望まれます。
- ◇ 問6「保護者との連携・交流」、問7「職員の対応」については、園として誠心誠意努めているところですが、さらに取り組みについて検討され、一層の信頼性向上を図ることが望まれます。

利用者（園児）家族アンケート集計結果

実施期間： 2008年 12月6日～12月14日

回収率： 72.6%（回収45枚／配布62枚）

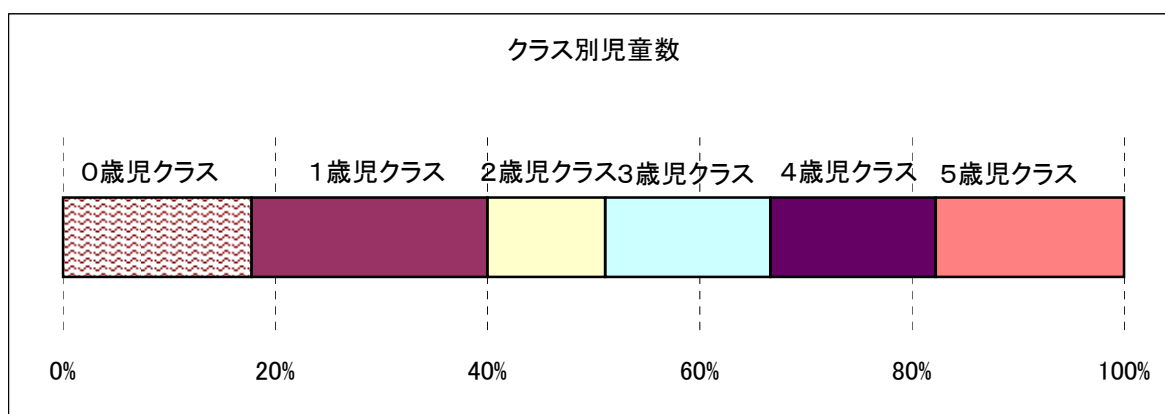
【属性】

クラス別児童数

(人)

合計	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス	無回答
45	8	10	5	7	7	8	0

※同一家族で複数名が園に在籍の場合は、下の子どものクラスで記入



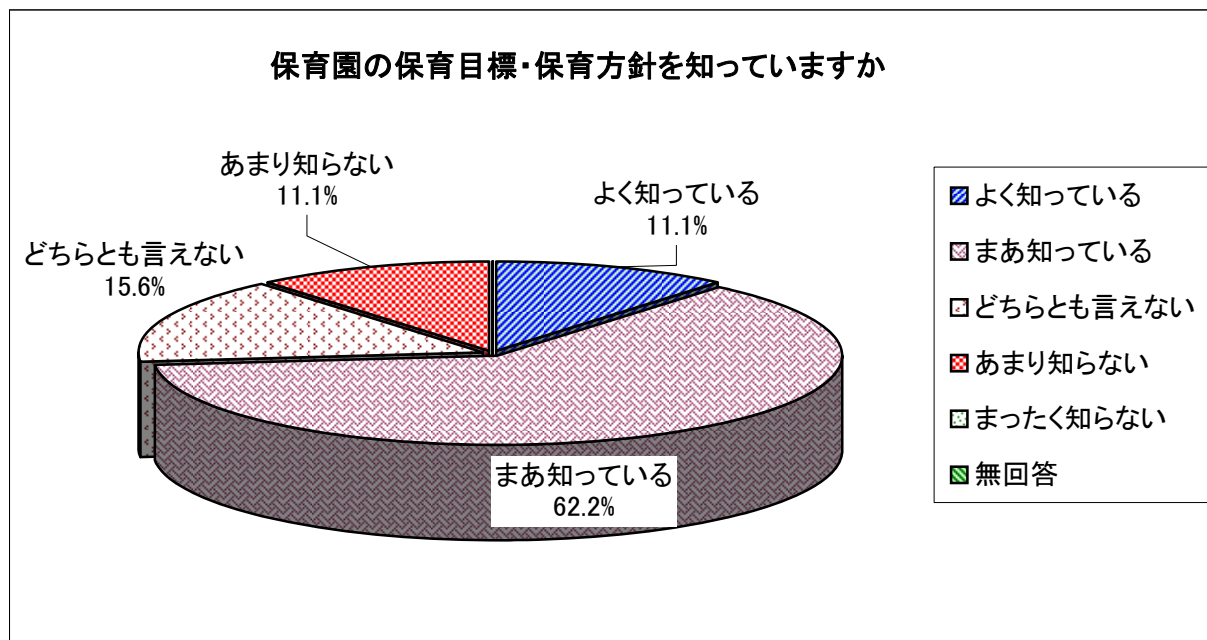
■ 保育園の基本理念や基本方針について

問1: 保育園の保育目標や保育方針を知っていますか

(%)

問1:	よく知っている	まあ知っている	どちらとも言えない	あまり知らない	まったく知らない	無回答	計
あなたは、この園の保育目標・保育方針をご存じですか	11.1	62.2	15.6	11.1	0.0	0.0	100

(%は小数第1位まで表示し、合計の小数第1位を四捨五入すると100%になります。)

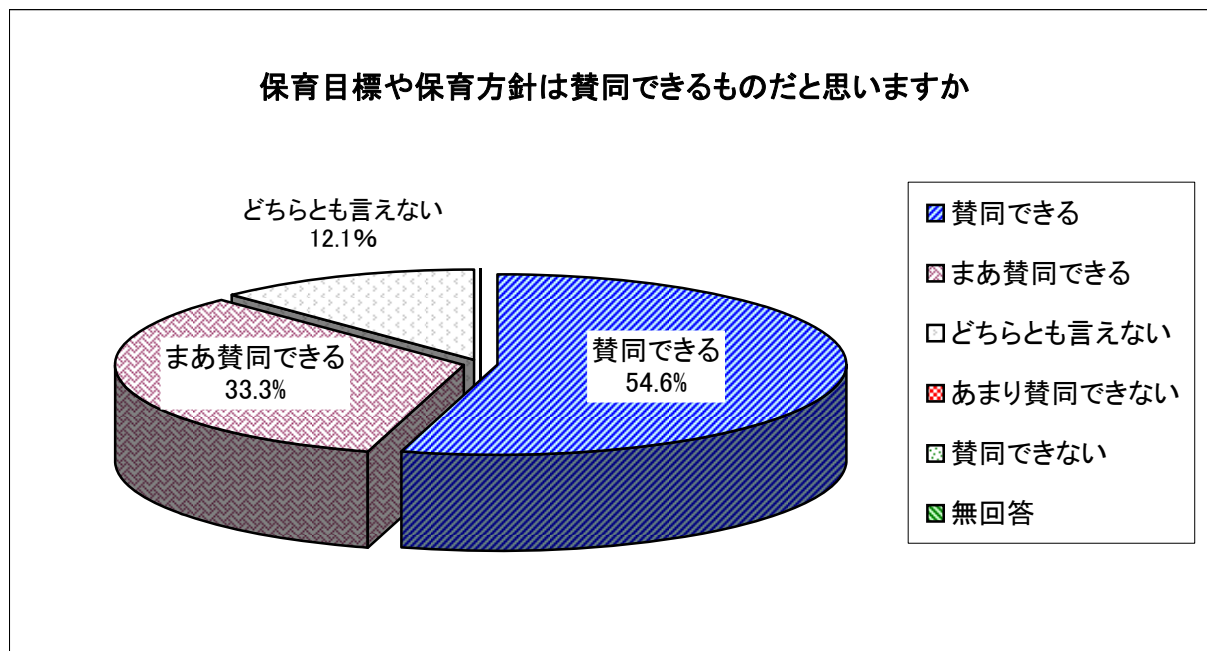


「よく知っている」「まあ知っている」と答えた方への付問

付問1: その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか

(%)

付問1:	賛同できる	まあ賛同できる	どちらとも言えない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答	計
あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか	54.5	33.3	12.1	0.0	0.0	0.0	100



■ 保育園のサービス内容について

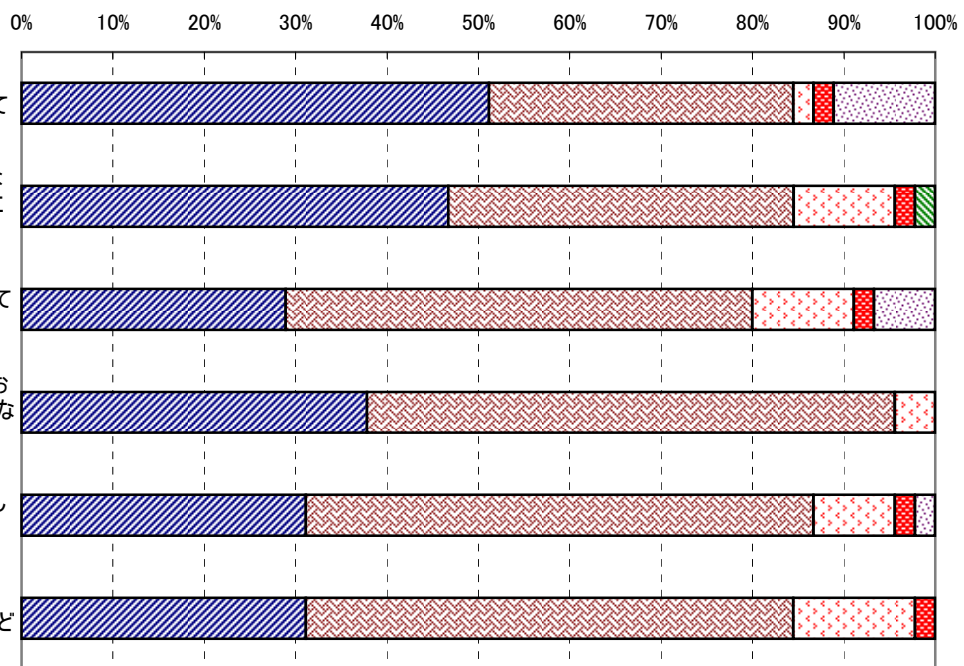
問2 入園時の状況について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
見学の受け入れについて	51.1	33.3	2.2	2.2	11.1	0.0	100
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	46.7	37.8	11.1	2.2	0.0	2.2	100
園の目標や方針についての説明には	28.9	51.1	11.1	2.2	6.7	0.0	100
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	37.8	57.8	4.4	0.0	0.0	0.0	100
保育園での1日の過ごし方についての説明には	31.1	55.6	8.9	2.2	2.2	0.0	100
費用やきまりに関する説明については(入園後に食い違いがなかったかなども含めて)	31.1	53.3	13.3	2.2	0.0	0.0	100

入園時の状況について

■ 満足 ■ どちらかといえば満足 □ どちらかといえば不満 ■ 不満 □ その他 ■ 無回答



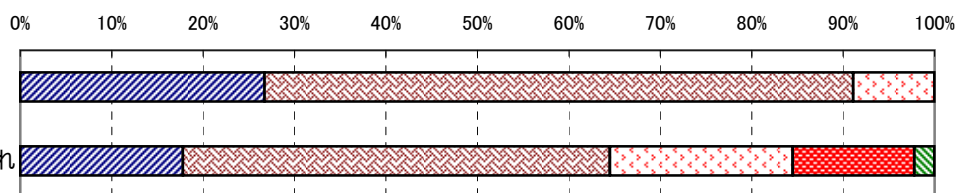
問3 年間の計画について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
年間の保育や行事についての説明には	26.7	64.4	8.9	0.0	0.0	0.0	100
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	17.8	46.7	20.0	13.3	0.0	2.2	100

年間の計画について

■ 満足 ■ どちらかといえば満足 □ どちらかといえば不満 ■ 不満 □ その他 ■ 無回答



問4 日常の保育内容について

(%)

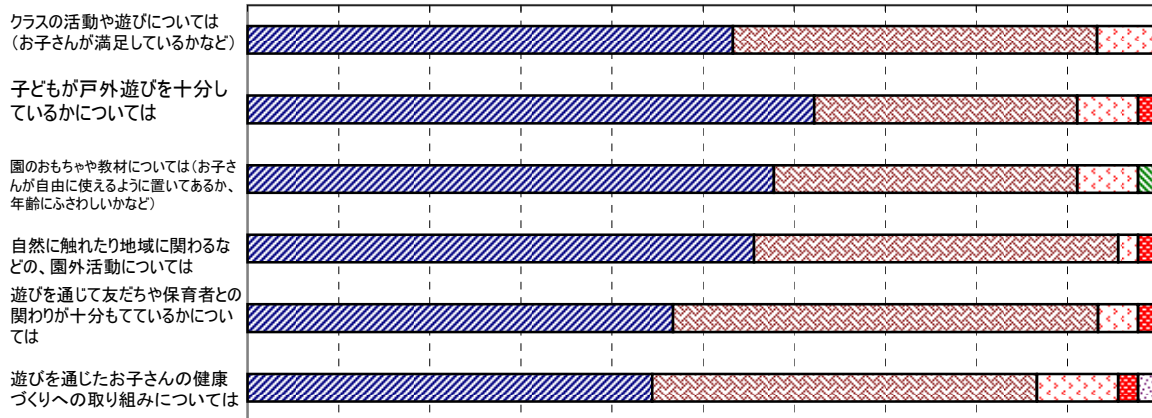
●「遊び」について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
クラスの活動や遊びについては(お子さんが満足しているかなど)	53.3	40.0	6.7	0.0	0.0	0.0	100
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	62.2	28.9	6.7	2.2	0.0	0.0	100
園のおもちゃや教材については(お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	57.8	33.3	6.7	0.0	0.0	2.2	100
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	55.6	40.0	2.2	2.2	0.0	0.0	100
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もっているかについては	46.7	46.7	4.4	2.2	0.0	0.0	100
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	44.4	42.2	8.9	2.2	2.2	0.0	100

日常の保育内容「遊び」について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



(%)

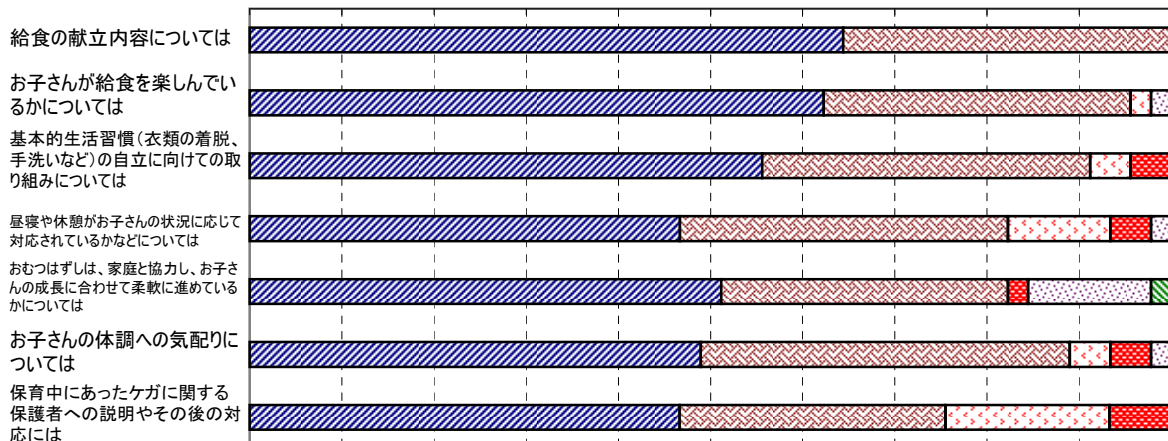
●「生活」について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
給食の献立内容については	64.4	35.6	0.0	0.0	0.0	0.0	100
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	62.2	33.3	2.2	0.0	2.2	0.0	100
基本的な生活習慣(衣類の着脱、手洗いなど)の自立に向けての取り組みについては	55.6	35.6	4.4	4.4	0.0	0.0	100
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	46.7	35.6	11.1	4.4	2.2	0.0	100
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	51.1	31.1	0.0	2.2	13.3	2.2	100
お子さんの体調への気配りについては	48.9	40.0	4.4	4.4	2.2	0.0	100
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	46.7	28.9	17.8	6.7	0.0	0.0	100

日常の保育内容「生活」について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



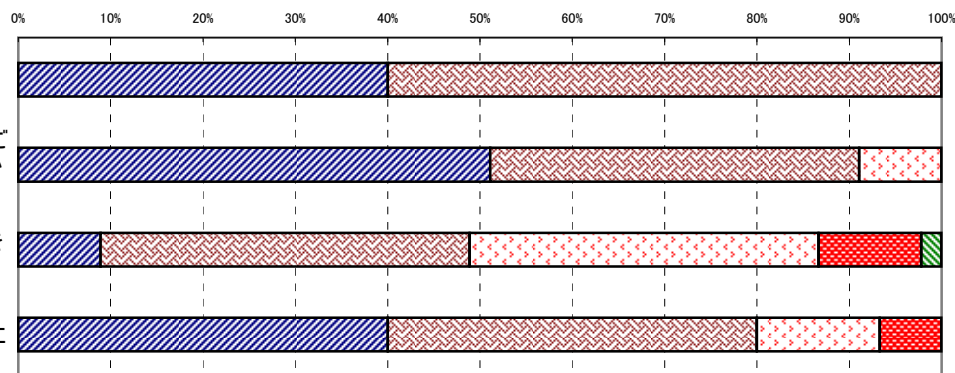
問5 快適さや安全対策などについて

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
施設設備については	40.0	60.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているかについては	51.1	40.0	8.9	0.0	0.0	0.0	100
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	8.9	40.0	37.8	11.1	0.0	2.2	100
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	40.0	40.0	13.3	6.7	0.0	0.0	100

快適さや安全対策などについて

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



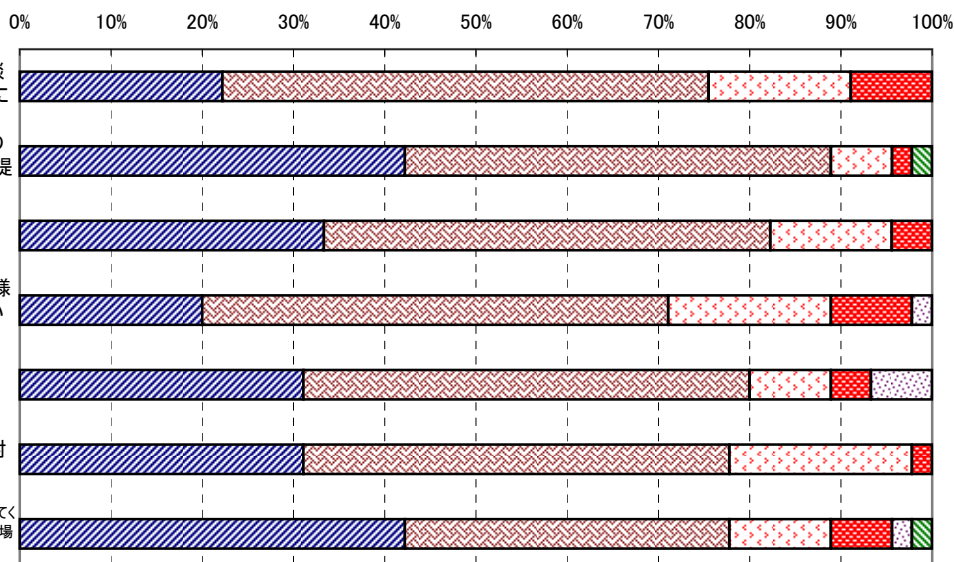
問6 園と保護者との連携・交流について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	22.2	53.3	15.6	8.9	0.0	0.0	100
園だよりや掲示による、園の様子や行事に関する情報提供については	42.2	46.7	6.7	2.2	0.0	2.2	100
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	33.3	48.9	13.3	4.4	0.0	0.0	100
送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換については	20.0	51.1	17.8	8.9	2.2	0.0	100
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	31.1	48.9	8.9	4.4	6.7	0.0	100
保護者からの相談事への対応には	31.1	46.7	20.0	2.2	0.0	0.0	100
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	42.2	35.6	11.1	6.7	2.2	2.2	100

園と保護者との連携・交流について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



問7 職員の対応について

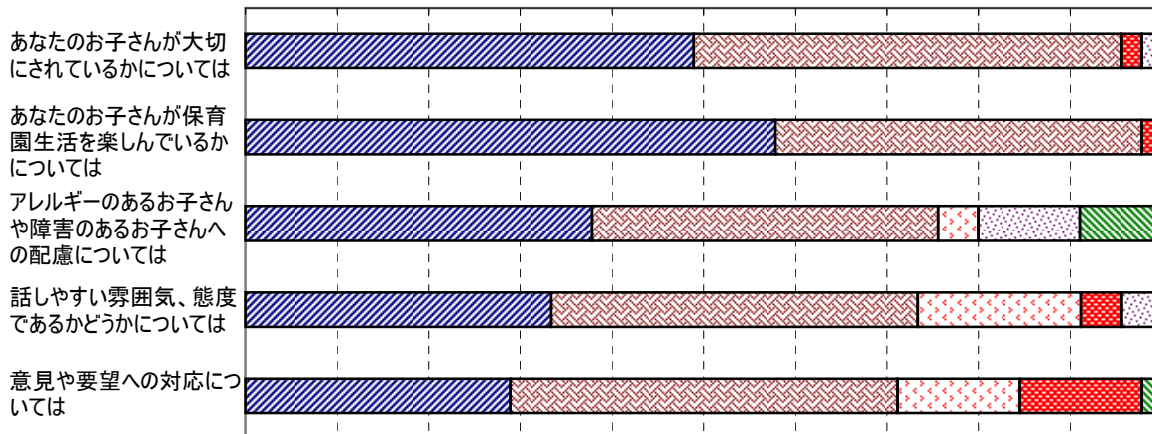
(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
あなたのお子さんが大切にされているかについては	48.9	46.7	0.0	2.2	2.2	0.0	100
あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについては	57.8	40.0	0.0	2.2	0.0	0.0	100
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	37.8	37.8	4.4	0.0	11.1	8.9	100
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	33.3	40.0	17.8	4.4	4.4	0.0	100
意見や要望への対応については	28.9	42.2	13.3	13.3	0.0	2.2	100

職員の対応について

■満足 ■どちらかといえば満足 ■どちらかといえば不満 ■不満 ■その他 ■無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

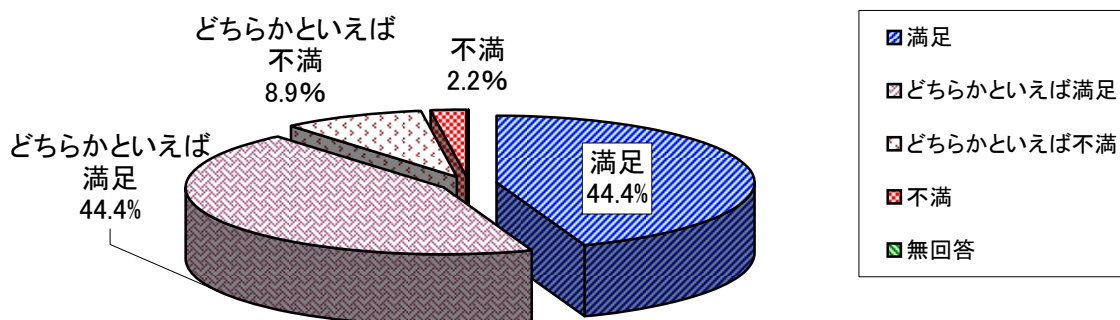


問8 保育園を総合的に評価すると

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答	計
総合満足度は	44.4	44.4	8.9	2.2	0.0	100

総合満足度



利用者（園児）本人調査 分析

観察調査 1月27日（火）9：10～17：20 1月28日（水）8：00～13：00

観察中、幼児を中心に、会話の中で適宜聞き取りを行いました。

0歳児クラス（ひよこ組、よちよち組）

おやつの時間になると、子どもたちは一人ひとり保育士に手を洗ってもらい、席につきます。そろったテーブルから、本読みや紙芝居、手遊びをし、一人ひとり点呼したあと、おやつとなります。子どもたちは集中して保育士の話を聞いており、「ワンワン見たい」などと好きな紙芝居をリクエストしたりすることもできます。おやつを食べ終わった子どもたちは保育士に手伝ってもらい口を拭いたあと、自分でタオルを袋にしまします。

散歩では、歩ける子どもたちは保育士に手をつないでもらい保育園の周りを一周します。犬や猫、庭の花や実、飛行機、郵便配達、玄関先のゾウやミッキーマウスの置物、そして踏み板の星模様に乗って子どもたちは興味があります。「ワンワンだー」「飛行機だー」「キラキラだー」と、とてもにぎやかです。途中ですれ違う近所の住民や親子連れとも保育士は元気にあいさつします。子どもたちも手を振り、あいさつを交わします。歩ける子どもたちが散歩から帰ると、入れ替わりに月齢の低い子どもや、まだ長い距離を歩けない子どもがバギーで散歩に行きます。

食事はテーブルについて、手やスプーンで食べます。みんな、しっかり食べています。保育士は「すごい」「大きいお口、えらいね」などと声をかけたり、うまくすくえない時には手助けしたりしています。

食べ終わった子どもは、オムツを替えてもらいます。保育士は一人ずつに向き合い、オムツカバーをはずすなど、自分でできることは自分でできるよう励まし、ゆっくりと話しながらオムツ替えをしています。そして、顔と手足を保育士にふいてもらい、歯を磨いてもらって、できるところは自分でやりながら服を着替えさせてもらってから、隣の部屋に寝にいきます。隣の部屋では別の保育士が待っていて、トントンして寝かせつけていました。

1歳児クラス（りす組）

登園してきた0、1歳児は、ブロック、ままごと、人形などで自由に遊びます。リュックを背負って「学校に行ってきます」と遊んでいるグループもいます。登園したばかりで落ち着かない子どもは保育士に抱っこしてもらいます。保育士はそばに座り子どもの遊びを見守り、おもちゃを渡したり声をかけたりしています。おもちゃの取り合いでけんかになった時には、保育士が間に入り、言葉で言うように仲立ちしています。

散歩には子どもたちは誘導ロープにつかまり一列になって行きます。公園にあるウサギの遊具で遊んだり、「ごはんです」「はいどうぞ」とおしゃべりしながら砂場で遊んだりします。帰りの急勾配の坂は「がんばれがんばれ」と自分を励ましながら登ります。園に着くと、園庭で遊んでいたぞう組やくま組の子どもたちが自然にやってきて、靴を脱ぐのを手伝ってくれます。靴下は自分でできるので、年上の子どもたちはそばで見守っています。

部屋に入ると、オムツを替え、手を洗って食事となります。子どもたちは片手にフォークを持ち、時々残りの手も使いながら一生懸命に食べます。おかわりの子どもには保育士が「ごはんとスープのどちらがよいの」と聞き、答えを確認してからよそいます。トイレは一人ひとりの様子を見て誘導しています。保育士は、一人ずつとゆっくり向き合い、便器で上手にできた時はほめています。

2歳児クラス（うさぎ組）

おやつあと、子どもたちはジグソーパズル、お人形遊び、ままごとなど思い思いに遊んでいます。木製の菓子器を臼にしてしゃもじ、お玉を杵にして、「お餅べったん」と、前月の行事をまねて餅つきをして遊んで

いる子どもたちもいます。保育士が手遊びをそれとなく始めると、子どもたちはだんだんと遊びをやめ集まってきました。みんながそろっていすに腰掛けたところで、朝の会が始まります。点呼のあと、「今日は雨が降っているかな」「降っていない」「お陽さん出てるかな」「出てる」と保育士と子どもたちで話し合い、外で遊ぶことになりました。

園庭では、つくしタワーと呼ばれる大型遊具やお城の形の小型遊具で遊んだり、砂遊びをしたり、ミニカーに乗ったりして遊びます。つくしタワーは特に人気です。3、4歳児が出てくると、2歳児はみんな砂遊びに移ります。砂場でスコップで砂山作りをしたり、テーブルの上で砂を一杯入れたバケツを誕生ケーキに見立てた誕生会ごっこをしたりして遊びます。

昼食の時は保育士の前に並んで、「おかずください」「はいどうぞ」「ありがとう」と会話を交わしながらよそってもらい、自分の席に運びます。スープを運ぶ時は、こぼさないようみんなとても真剣でした。

3歳児クラス（こあら組）

調査日はホールで2月に行われる生活発表会で演技するダンスの練習をしていました。ホールで練習するのに慣れていなくて、戸惑う子どももいましたが、保育士に教えてもらいながらみんながんばって最後まで踊りました。

練習のあとは、隣の公園に列を作って移動し、遊びました。準備運動で体を動かした後は、自由遊びです。ボール蹴り、砂遊び、ブランコ、鉄棒、縄跳びなどで思い思いに遊びます。5歳児の遊びに積極的に加わりとうとする子どももいます。年長の子どもの遊びをみんなよく見ており、年長の子もたちがいなくなると大きい子たちの真似をして、「こうやるんだよ」とルールを話し合い、集団で遊びます。縄跳びに入ってきた2歳児に遊び方を教えることもできます。『だるまさんがころんだ』も「こうやるんだよ」などとみんなで話し合い、上手に遊んでいました。

1月からは3歳児も当番に参加しており、ぞう組の子ども2人に教えてもらいながら一生懸命に机を拭いていました。食事は決められた時間内の好きな時間にホールで食べることになっています。3歳児は比較的早く席につく子どもが多いです。そろったテーブルから先生の前に並び、「多くして」「小さいのがよい」などと自分が食べられる量をよそってもらいます。テーブルには3、4、5歳児と月齢の高い2歳児が混じってついています。4、5歳児にいろいろ教えてもらいながら、みんなおしゃべりをしながら一生懸命食べています。

4歳児クラス（くま組）

朝の会のあとは生活発表会の劇の練習です。みんなとても元気で大きな声で「エイエイオー」と言っています。せりふを忘れた時は、保育士に教えてもらいます。友だちのせりふまで覚えている子どもも多く、『ももたろう』にみんな一生懸命に取り組んでいます。

自由遊びの時間にも、『ももたろう』のお面をつけ、CDで『ももたろう』の話を聞きながら遊んでいる子どもがいます。自分の役だけでなく、いろいろな役のお面をつけて遊んだり、紙を丸めたきびだんごを食べるまねをしたりします。『ももたろう』に出てくる歌を大きな声で歌って自主練習しているグループもあり、劇の練習が子どもたちの遊びの中に自然に取り込まれていることが分かります。

調査日は3、4、5歳児の「栄養指導」の日でした。栄養士がおからはどのようにできるかを、子どもたちと話し合いながら説明します。水に一晩つけた大豆と乾燥した大豆を比べて見せて、水につけた大豆をミキサーにかけ、それをふきんにとって絞り、おからを作って見せますが、子どもたちはみんな、豆乳や豆腐、おからがどのようにできるかをよく知っており、質問に元気に答えています。食事の時間には、おからサラダをみんな一生懸命食べていました。

5歳児クラス（ぞう組）

朝の会は3、4、5歳児が一緒です。保育士に絵本を読んでもらったあとは、インタビューです。今日の質問は何にするかをみんなで話し合い、「保育園で出るおやつで好きなものは？」に決まりました。保育士に名前を呼ばれると前に出て、「イチゴジャムサンドが好きです」などと発表します。ガーリックトースト、シュークリーム、フルーツポンチなどいろいろ出ます。声が小さすぎる子どもには保育士が声をかけて励まします。

今日の予定の説明のあとは、劇の練習まで自由遊びです。『オズの魔法使い』の台本を持って、劇の自主練習をするグループ、畳のスペースではすごろくをするグループ、2階のアスレチックや園庭で遊ぶグループといくつかのグループに分かれて自由に遊びます。

劇の練習の前にみんなで「ビリーブ」を歌いました。手話ができる子どももたくさんいます。みんな楽しそうに手話をしています。『オズの魔法使い』の練習では、子どもたちは台本を持たずに順番に台詞を言います。時々忘れてしまう子どももいましたが、保育士に話の流れや最初の一言を教えてもらい、みんな最後まで終わらせることができました。劇に出てくる歌も元気よく歌っています。

けんかの場面では、保育士は言葉で言うことの大切さを伝え、子どもたちで話し合っ解決するように促していました。

ある日の「ぶるぶる」一時保育

週1回の「ぶるぶる」一時保育の日には、登園してきた子どもは事務室の入り口で保護者と離れ、ホールの中の棚で仕切られたコーナーで遊びます。楽しみにしていてサッと遊びに入る子どももいれば、さびしそうにしている子どももいます。保護者と離れ、落ち着かない子どもには保育士が寄り添います。しばらくすると、保育士の働きかけもあり子どもたちは落ち着き、ままごと、ブロック、絵本などで遊びだしました。

落ち着いたところで、この日は小麦粉粘土遊びをしました。おもちゃで遊びたい子どもは、そのまま続けて遊び続けることができます。一斉活動のあとは、2階のアスレチックです。子どもたちは声をあげて走り回り、とても楽しそうでした。

給食はみんなで一緒に食べます。中には初めて食べる食材に戸惑う子どももいますが、おかわりする子どももいます。給食のあとは、本読みや手遊びをして、お帰りで。

お迎えの保護者には、デジカメで撮った写真を見せて、保育士が様子を話します。

まとめ

園では子どもたちが主体的に遊びを見つけ、自分の好きな遊びを遊びこめるよう環境を整えています。このような環境のもと、子どもたちは保育士に見守られ、安心し、落ち着いてのびのびと毎日を過ごしています。乳児には、保育士は目線を合わせ、やさしく穏やかな声で、たくさん話しかけています。トイレの時に保育士は一对一でスキンシップをとる時間を作っています。

幼児は自分たちで考え、主体的に生活できるよう、保育士は見守っています。子どもたちは自分たちで好きな遊びを見つけ、じっくりと遊びこんでいます。また、自分たちで話し合い、遊び方やルールを決めたり、もめ事を解決したりしています。相手の気持ちに気がつかない時や、自分の気持ちをうまく伝えられない時などには、保育士が中に入り子どもたちが気がつくような声かけをしています。

生活面では、乳児の時から、約束事やルールを教えるとともに、タオルをしまうなど自分のことは自分でやるような習慣づけをしており、幼児になると何でも自分でやるできるようになっています。給食では、幼児は決められた時間内の好きな時間に、自分の好きな量を言って保育士によそってもらい、セミバイキング方式となっており、自分の食べるペースや食べられる量を少しずつ学んでいます。

事業者コメント

受審するにあたって

園が開園して7年になります。開園までの準備期間が短く話し合いも十分できないまま忙しい毎日がスタートしました。始めはそれぞれ違う園で勉強してきた保育士が主となり、その経験を基に保育課程を立て、各クラスの保育を進めていきました。保育も落ち着き始めたものの、子どもへの配慮のあり方・職員の意識の持ち方の違いが出てきてしまい、職員から疑問や不安が多く出るようになりました。

受審をする事で園の事をもう一度確認し、これから職員の連携のあり方、チームで行っている保育や自己の良い点、改善点が見えてくるのではないかなど、期待を持ち受審をお願いすることになりました。

業務マニュアルの整備や自己評価をしていくにあたっては、主となる検討チームを中心に乳児チーム、幼児チームを作り話し合いの時間を持ち、慌ただしい中での作業になりました。評価をしていく上でABCを素直につけても良いのでは。しかし、現在の物を少しの見直しをすることで良くなる点については、Aになるように話し合いの中でマニュアルの修正を行っていくことにしました。作業を進めて行く中で気づいた事は、実際は行っているがマニュアル化していないということで、職員は現状をマニュアルに興すことで再確認していきました。

評価を受けて

園の調査をして頂く2日間はとても寒く、3名の調査員の方々には大変ご迷惑をおかけいたしました。厳しい寒さの中とてもよく園の様子を見て頂き「子どもがのびのびしています。保育方針を基に子どものために良い指導をしています。これからも向上をして行って下さい。」とお褒めの言葉を聞けた事、私たち保育をしていく上で本当に嬉しく思いました。そして保護者の皆様の「統合的には満足している」という結果は職員のこれからの保育の励みとなりました。

しかし、保護者の意見で防犯上の不安、園と家庭の連携という点ではいくつかの改善点が求められています。その改善点については職員会議でいち早く取り上げ、反省・振り返り、次の保育過程等に盛り込んでいます。また、園の課題であった連携についてはマニュアルの改善をしたことで皆の共通理解が深められ、職員の連携がスムーズになり更なる向上が目指せることが確認できました。

今回の受審に携わって頂いた皆様に心より感謝いたします。

キッズビレッジ つくし保育園
園長 大竹美智子

～ 評価結果は、下記のウェブサイトからも見るすることができます ～

市民セクターよこはまの第三者評価のページ

<http://www.shimin-sector.jp/hyouka/>

横浜市(健康福祉局)の福祉サービス第三者評価のページ

<http://cgi.city.yokohama.jp/kenkou/jigyousyajoho/hyoukaall.cgi>

かながわ福祉サービス第三者評価推進機構のページ

<http://www.k-daisansyahyouka.org/>

特定非営利活動法人



特定非営利活動法人

市民セクターよこはま 評価事業部

かながわ福祉サービス第三者評価認証機関 第4号

横浜市福祉サービス第三者評価指定機関 第4号

〒231-0013 横浜市中区住吉町二丁目 26 番地 洋服会館 2 階

TEL:045-222-6501

FAX:045-222-6502

<http://www.shimin-sector.jp>
